

公衆衛生の施策は地域でどのように行われ、
住民の健康や医療にどのような影響を与えてきたのか?
保健所歯科医の著者が、具体的な事例からその実践の姿を明らかにする

OHブックス 19

私の口腔保健史

—保健所歯科医の歩んだ道—

著者 矢澤正人

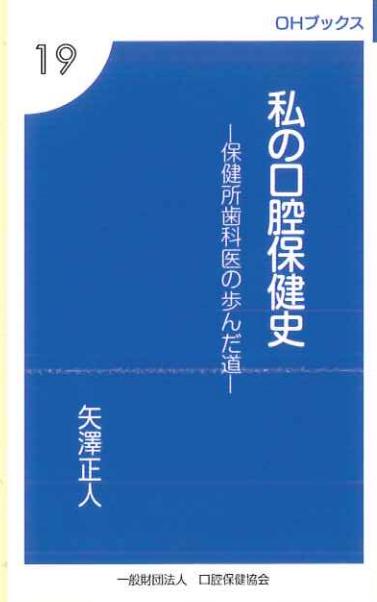
長年、行政・保健所の歯科医師として公衆衛生活動に取り組んできた著者が、さまざまな事例を紹介しながら、「それらはいかにして可能になったか?」を考え、成功への手がかりを示す。クラウドを活用した連携など、今につながる取り組みを示されており、より実践的な内容となっている。

紹介されている事例

- ・8020運動の誕生
- ・要介護高齢者の訪問歯科診療
- ・摂食嚥下機能支援事業
- ・障害者歯科保健事業
- ・子育て支援の視点からの歯科保健
- ・ヘルスプロモーションとしての歯科保健
- ・在宅医療推進のためのクラウド型連携ツール etc

目次

- 第1章 保健所歯科医としての原点
- 第2章 8020運動の源流
- 第3章 公衆衛生とは何をするのか?
- 第4章 生涯、口から美味しく安全に食べるためには
- 第5章 保険・医療の新たな方向性を求めて



- 新書判 274 ページ
- 定価 1,760 円（本体 1,600 円+税）
- ISBN 978-4-89605-376-0

一般財団法人 口腔保健協会

〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 駒込TSビル501
TEL 03-3947-8301 FAX 03-3947-8073 <http://www.kokuhoken.or.jp/>